

高村ゆかり

名古屋大学大学院 環境学研究科 教授

龍谷大学教授などを経て、2011年より現職。国際法学、環境法学を専門とし、京都議定書やパリ協定など地球温暖化に対処する国際的な法制度・政策などに関する研究を行っている。近著に『気候変動政策のダイナミズム』（新澤秀則との共編著、2015年）、『気候変動と国際協調—京都議定書と多国間協調の行方』（亀山康子との共編著、2011年）などがある。

柳田 康一

花王株式会社 サステナビリティ推進部長

1985 花王株式会社 入社
2000 加工・プロセス開発研究所 室長
2002 包装容器開発研究所 室長
2008 環境・安全推進本部 部長
2016 サステナビリティ推進部長

ハイケ・シュローダー

イースト・アングリア大学 シニア講師

2003 ベルリン自由大学 PhD 取得（政治学）
2007-2011 オックスフォード大学 環境変動研究所
2011- イースト・アングリア大学 国際開発学部

REDD+の国際制度設計に関する第一線の研究者。

UNFCCC における国際交渉の動向、森林ガバナンスや REDD+などの環境ガバナンスについて、多様なアクターの役割に着目した研究を専門とする。2000年から2002年までは東京大学に留学し日本の気候変動政策をテーマに博士号を取得するなど、日本にもなじみが深い。

コンスタンス・マクダーモット

オックスフォード大学 環境変動研究所 シニアフェロー

2003 ブリティッシュ・コロンビア大学 PhD 取得（社会林業学）
2003-2005 個人コンサルタント（森林政策など）
2005-2009 イェール大学 プログラム主任・ポスドク

2009- オックスフォード大学 シニアフェロー

様々なアクターによる森林・気候・ランドスケープのガバナンスに関する研究について 25 年以上の経験を持ち、単著、共著、査読付き論文などで 50 本以上の研究実績を持つ。森林ガバナンスや、森林分野への市場経済の影響や非政府セクターの果たす役割についての研究に取り組む。主なフィールドは、アメリカ、ヨーロッパ、アジア、アフリカなど。

ロベル・ナッシ

国際林業研究センター (CIFOR) 副所長

1994 パリ第 11 大学 PhD 取得 (生命科学)

2014- 現職

熱帯林ガバナンス研究の第一人者。1982 年より生態学や森林の持続的利用など熱帯林ガバナンスの研究に従事し、200 本以上の研究業績を持つ。熱帯林のよりよい管理、持続的な生計活動の実現、森林政策の改善などを目的に、林産物の持続的利用や熱帯林の多様な利用と管理について研究を行っている。また、近年では、野生生物管理と狩猟活動の問題についても取り組んでいる。主なフィールドは、アフリカ、アジア、太平洋地域など。

百村 帝彦

九州大学 熱帯農学研究センター 准教授

専門は森林政策学・東南アジア地域研究。東京大学・大学院農学生命科学研究科にて博士(農学)の学位取得。1996 年から 1998 年まで JICA のラオス森林保全プロジェクトの専門家、1998 年から 2011 年まで地球環境戦略研究機関(IGES)の森林保全プロジェクトの研究員、2011 年より現職。主な研究テーマは、大陸部東南アジア地域における REDD+ のインプリケーション、森林管理における住民の関与、違法伐採対策に関する研究。主要なフィールドはラオスとカンボジア。

アントニオ・ラ・ビーナ

アテネオ・デ・マニラ大学 教授/マニラ観測所 事務局長

元フィリピン環境省次官として京都議定書下の森林吸収源交渉をまとめるなど、気候変動分野において広く知られる。また、2009 年から 2015 年までフィリピンの交渉官を務め、森林分野や気候変動分野における人権や生物多様性に関する議論をけん引してきた。2009 年から 2011 年までは、REDD+ に関する交渉の議長を務めた。イエール大学で PhD (法学)

を取得。

水谷 伸吉

社団法人 more Trees 事務局長

慶応義塾大学経済学部卒。その後(株)クボタを経て2003年よりインドネシアでの植林団体に移り、熱帯雨林の再生やグリーンツーリズムに取り組む。2007年に音楽家・坂本龍一氏の呼びかけによる森林保全団体「more trees」の立ち上げに伴い、活動に参画し事務局長に就任。以来、国内各地でのJ-VER/Jクレジットの立ち上げ、フィリピンではVCSに準拠したプロジェクト化に関わるとともに、森林由来のクレジットに特化したカーボンオフセットのマッチング事例を手掛ける。